

令和7年度 第1回 学校運営協議会
委員 参加

司会

授業見学 5限目 英語 6限目 特活

資料確認

1 学校長挨拶 第1回出席ありがとうございます。できれば授業を見学していただければと思います。長年運営協議会委員お引き受けありがとうございます。また課題もいろいろあります。忌憚ないご意見をお願いいたします。

大阪教育大学 教授 平賀 健太郎 様

大阪はびきの医療センター 小児科主任部長 亀田 誠 様

社会福祉法人 羽曳野荘 理事長 中條 薫 様

羽曳野市立羽曳が丘小学校長 前田 幸章 様

会長 副会長 自薦他薦無し

会長 平賀 健太郎 様 副会長 亀田 誠 様

協議 平賀 会長

委員の方から積極的なご意見をいただきたい。

学校見学について

子どもたちも2日前 非常に緊張していたが先生のかかわりの丁寧さがよくわかってよかった。

羽曳野荘 緊急一時保護の子どもに家庭教師が来る制度がある。思いのほか、先生が独占できるので、子ども自身に合った教え方をしてもらえる。子どももそういう心地よさを感じて、羽曳野荘で学んで心地よさを感じて原籍校に戻った 羽曳野支援学校でもそういう心地よさを感じさせてあげてほしい。

校長 40分授業どうかなと思ったけれども、50分授業よりも教科内容が進む時がある。35人学級では友達との会話があり集団が良いところもある。教科指導の内容を工夫すれば個別最適化ができると思う。他人との共同作業として主体的対話的な学びについては、本校は児童生徒の人数が少ないので、課題だと考えている。

本校では、教科の深まり、子どもが一人ひとりが主人公として学校生活に参加できるが、原

籍校に帰っていった時に集団の中でどうするかというのが課題となる。前の学校より羽曳野のほうがよかったというのはありがたいが、学びを汎化させるというのが課題だと考えている。

平賀会長 学びは、何を学ぶに加えて、誰と学ぶというのが特に大切。教師と子どもという関係ではなくて先生が時には友達役を担われている場合もあると思う。

子どもにとって、入院はショックを受けて衝撃的なこと、子どもにとってとてもいやなことだからこそ先生との学校生活の思い出はとても大切なのかなと思った。

校長 原籍校はあまり登校できていないが、羽曳野支援に来たくないという生徒はいない。しかし原籍校で羽曳野での学校が楽しいという気持ちを続けられるかが課題となっている。

学校経営計画

前年度の3月に承認していただいた計画です。進捗を説明します。

1 個別 ① 学習支援 オンデマンド クラブサービス リクルート スタディサプリ
学習保障 オンデマンド まだ課題は残っている。将来的に教員数が減るので、全教科確保がむずかしくなる。子どもが減ってくると法律で教員定数も減る。本校教員のオンデマンドのコンテンツをつくったり、オンライン授業も将来的には充実させていきたい。分教室同士を結んでやりとりできるように準備を進めたい。

② 阪南分教室昨年度1回のみ、来週金 阪南マルシェ 11月にも動いている。母子分教室も似たようなことをしている。母子分教室 血液、小児がんの児童生徒もほかの人に割らせる『しおり』のようなものの制作し、配ったりしている。

学校経営マネジメント経費で プログラミングできる機械を 万博 360度カメラ VR体験を考えている。あちこちコンテンツとして制作していきたい。教材ができあがりしだいぜひ体験していただきたい。

③ センターの機能の充実 ※資料参照

独自プロジェクト6月13日 羽曳野市教委 学校教育課長と面談、適応指導教室での連携を提案してきた。ぜひ羽曳野支援と進めると快諾いただいた。

とりあえず、取り組み内容を見学から、今年度は8回ほど予定している。「ひまわり教室」がうまくいくと市内の各学校に広げていきたいと話をしていただいた。2学期から近隣の小学校かなと思っている。原籍校とオンラインでやり取りできるように準備を進めている。

羽曳野支援学校内の図書を充実させる。キャリアバックを3つ用意した。教員用の図書を運ぶ。教員の資質向上のために図書を充実させたいと思っている。授業見学は積極的に進めていきたいと持っている。リクルートのED テック総研（シンクタンク）の人、インタビューを受けたが、7月ぐらいに記事が載る予定である。

④ 安全安心な学校

首席 人権教材を3つ、作る。人間関係友達関係の良い教材、デートDV等を参考にしながら作成していきたいと思う。

校長 本校のように系統的な人権の授業をたてにくい難しい状況でも、共通して学べる。システムを作っていきたいと考えている。

④ 教職員の働き方改革 時間外勤務は比較的少ない部類の学校である。1週あたり、時間外は一人につき8時間平均時間となっている。ほぼほぼ5時過ぎに退校している状況、他の支援学校で25時間程度、高校は40時間を超える。羽曳野支援は働き方改革に沿って勤務状況は優秀で、子どもが放課後に病棟にかえるので、定時退校後の家庭での問題を考える必要がなく、定時に対応しても大丈夫であると安心材料となっている。放課後に突発的なことが少ない。分掌再編を機会として、業務の精選や削減を進めていきたいと思っている。

1分掌1委員会 今年一年間どのようになるのか検証している最中である。

①個別最適

心身の安定のうえにICT プログラミング様々な教育が展開されている。

亀田 今までの事に問われず取り組まれているのがすばらしい。自分の子どものころとはちがってICT教育に取り組まれているところがすばらしい。作業学習等は今の子どもたちにはとても大切、母子分教室で、社会でのつながりが希薄になりがちなのが取り組まれているのがとても大切で良いことであると思う。

校長 工夫は、入院はすごいショッキング、自己肯定感、とても落ち込んで子どもが多い。だまがわ高等支援設置プロジェクトに所属し新校設立から関わってきた。48名中、ほぼ全員が中学校でいじめなどを受けた経験者であった。30時間のうち11時間職業の授業を担当し、1期生が卒業するまで勤務していた。入学時の生徒の状態と卒業時ではぜんぜんちがった。人の役に立つとか自分のやったことが形になる3年間で自己肯定感が非常に上がった。母子の子ども手先が不自由なわけではない。できあがりではなく、誰かのためを思って作る、ほめてもらえる機会があればいいなと思っている。入院期間がむずかしく、行事の実施時期、長くて1か月、2週間の児童生徒にどうさせるかが課題となっている。分教室ごとにカスタマイズが必要かなと思っている。

はびきの地域支援について

前田 学校に声をかけていただいている。LICにも行っているとのこと、地域支援する人がいるというのは本当にすごいことだと思う。不登校のこどもたちがいるがうちの小学校にも直接支援にきていただくことができないのかなと思った。

校長 ひまわり 市教委の検証の上に、市教委を通じて連絡をいただければ。

本校の授業の兼ね合いも含めて考えていきたいが、将来的には通級指導教室として認めていただければ、専属に配置することもあるかと思う。

会長 お互いの教員理解が必要になるが、どうか。

前田 SC SW がきても 小学校では担任が周りに頼らず自分一人でやろうとする傾向がある。担任だけではなく、いろんなところに相談して活用したらいいと思う。

校長 学校の先生と共同でやろうとしていることで考えている。積み重ねの上に内容のバージョンアップ、アセスメントなどをウェブで公開したいと考えている。

心配しているのは、本校で支援したことをうまく地域校につないでいければと思っている。

亀田 今までは支援学校の学習目標は自立にむけて、支援学校との連携によって強く実現できる。もう一つの側面に、学校に来ることによって不調や予防の観点から学校での教育活動は必要で地域の学校にとって支援活動は意味のある取り組みだと思う。さまざまなタイプの子どもが羽曳野支援学校、非常に意味のあることだと思う。

校長 アトピーアレルギーの子どもは以前は1か月入院 もともと学校には行きにくかったという生徒もいる。予備軍はたくさんいる。1年に5万人増える。不登校の傾向のあるそうした思いを抱えたりする児童や生徒も非常に多い

会長 現代の学校教育の課題 先行している形で羽曳野支援が対応に取り組んでいると思う。

校長 今後もさらに取り組みを進めたい。

会長 ③4でご意見

とくになし。

会長 提案もしくは相談 委員の 子どもことを一番理解している保護者の声をできるひろって反映できる仕組みがなんとかできないかと考えている。保護者の声も反映するには、オンラインアンケートか、なにかできないかとおもっている。

校長 学校教育自己診断 看護師さんにもしてもらっている。

2年間自己診断を見ているが、児童生徒や保護者は、前籍校が自身の学校であるという意識があり、羽曳野支援学校への改善要求とは捉えていないのではと思われる。回答は、ほぼ良かったが殆どである。

会長 保護者の意見が貴重なものとして出る場合もある。

校長 全国 3割の学校がPTAなしの状況である。病気が治ったら原籍校に帰るからと

いう意識の方が多い。

はびきの荘 一番長い入院期間の分校は

校長 母子医療センター分教室と思う。入院期間が長い中で教育を受ける。また何ができるか検討したい。

司会 貴重な意見をありがとうございました。またご意見を生かしていきたい。

4 教科用図書 選定理由書 資料参照

実際には地域校で使っている学校の教科用図書を使用している。

閉会の挨拶

いろいろご意見をいただきありがとうございます。学校独自で教育活動や課題を解決できることは実はほとんどありません。今後ご意見お知恵とお力をお借りしたい。